



よう太のワーク 「地域安全マップ」

危険な場所 児童体感

小学校（埼玉上尾）で地域安全



「入りやすい」「見えにくい」

●記事からさがそう。

- ①人通りの多い所が、必ずしも安全ではないのはなぜですか。
- ②犯罪に巻き込まれる恐れがある場所のキーワード二つをあげてみよう。
- ③学校近くの歩道橋が「危険」なのはなぜですか。
- ④人目につきにくく出入りしやすい「要注意」の場所を三つあげてみよう。
 - ・
 - ・
 - ・
- ⑤記事を読んで、なるほどと思った点、興味を持った点、疑問に思った点、自分の体験、友達の体験などなど、自由に書いて、班の仲間たちと発表し合おう。

子どもを連れ去る事件が後を絶たない。「不審者」は見た目では判別できないことが多く、身を守るには、犯罪が発生しやすい危険な場所を知ることが重要だ。その特徴を体感してもらおうと、小学校で行われている「地域安全マップ」作りの取り組みを紹介する。

「人通りの少ない所」と「人通りの多い所」はどちらが安全か。

「少ない所」に手をあげた児童が多かったが、正解は「子どもを狙う犯罪者は子どもが居そうな場所に居るので、人通りだけでは安全か危険か区別はつかない」。

埼玉県上尾市の市立大谷小学校。体育館に集まった4年生に、立正大の小宮信夫教授（犯罪学）が対照的な場面を挙げ、どちらが危険か尋ねた。

明るい場所と暗い場所なら、子どもの居る明るい場所に犯罪者は現れるといい、安全の“常識”を覆していく。犯罪に巻き込まれる恐れがある場所として、「入りやすい」「見えにくい」をキーワードに挙げた。

この後、児童は班に分かれて大学生ら指導者とともに学区内を回った。特定の場所が危険かどうか、二つのキーワードに照らして風景を見て考えていった。

まずは学校の近くの歩道橋。交通指導では通学路として「安全」なはずだが、小宮教授は、構造的に下の歩道から様子が見えにくい「危険」な場所と指摘した。教授と児童は一緒に考えながら、窓がないアパートの壁付近や、体育館に面した囲いのない公園、畑に囲まれた道路なども、人目につきにくく出入りしやすい「要注意」の場所に分類。危険な場所は写真に撮って記録した。

学校に戻ると、回った場所の地図を模造紙に描き、撮ってきた写真を貼って班ごとに「地域安全マップ」を作った。安全か危険か、その理由をマップに書き込むことで理解を深めていった。

参加した児童は「安全だと思っている場所が安全でないこともあるので気をつけたい」「危ない所は1人で通らないようにしようと思った」などと感想を述べた。

小宮教授は「犯罪者は子どもを無理やり連れ去るのではなく、だまして連れていくことも多い。防犯ブザーを持っていれば安心できるわけではない。声を掛けられたら、周りの景色を見て『入りやすい』『見えにくい』場所かどうか考えれば、だまされにくくなるはず」とアドバイスしている。

掲載日：2014年4月2日／紙面：山陽新聞朝刊／掲載：

・ ____月 ____日

____年 ____組 ____番 名前 _____

解答例

- ① 人通りの多い所が、必ずしも安全ではないのはなぜですか。
子どもを狙う犯罪者は子どもが居そうな場所にいるから、人通りだけでは安全か危険か区別はつかないから
- ② 犯罪に巻き込まれる恐れがある場所のキーワード二つをあげてみよう。
入りやすい 見えにくい
- ③ 学校近くの歩道橋が「危険」なのはなぜですか。
構造的に下の歩道から様子がみえにくいから
- ④ 人目につきにくく出入りしやすい「要注意」の場所を三つあげてみよう。
 - ・ 窓がないアパートの壁付近
 - ・ 体育館に面した囲いのない公園
 - ・ 畑に囲まれた道路
- ⑤ 記事を読んで、なるほどと思った点、興味を持った点、疑問に思った点、自分の体験、友達の体験など自由に書いて、班の仲間たちと発表し合おう。